

未来予測は難しい！

渡邊博之（農学研究科長）

前回、本紀要の巻頭言を書かせていただいたのが、2021年3月（第5号）だった。2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が始まった年で、卒業式や入学式の中止、小中高校の臨時休校、授業のオンライン化など、教育現場は混乱を極めた。カリキュラムや教育行事など、準備していたスケジュールを全てひっくり返すような事態が続いた。あれから3年が経ち、新型コロナウイルス感染症に関して、世界はようやく平静に戻りつつある。日本も遅ればせながら、今年の5月にはこの感染症の位置づけを感染症法2類から同法5類に分類変更する見通しとのことである。

ちょうど新型コロナウイルス感染拡大が落ち着きの兆しをみせはじめた昨年のいま頃、ロシア・ウクライナ戦争が始まった。ウクライナ・ブチャでの虐殺の映像など、流れてくる悲惨なニュースを見るたびに数千万人を超えるおびただしい犠牲者を出した先の大戦の教訓はどこに行ったのか、国同士愚かしい殺し合いがこうも簡単に繰り返されるものかと無力感に打ちのめされた。数週間で終わるかと思われた民間人を巻き込んだ戦争が始まって、間もなく一年が経とうとしている。エネルギーや食糧の供給など、いやが上にも世界中が振り回されている。だれがこのような事態を想像しただろうか。将来の見通しが難しい時代だどつくづく感じる。それと同時に予測の難しい未来に対して、臨機応変に適應することの重要性を感じる。

カンフー映画で有名な俳優であり武術家でもあるブルース・リーは、生前のインタビューで、彼が学んだ武道の教えにならって“Be water, my friend！”という言葉を残している。彼は32歳の若さでこの世を去っているが、米国で生まれ、中国返還前の香港で育ったその生い立ちから、人種や国籍などの社会的な差別に対して一貫して異議をとなえ続けた。彼は人生のあらゆることについて武道を通して学んだといい、その奥義が「友よ、水になれ」だという。変化する相手や状況に対して、自身も水のようにフレキシブルに適應する。未来予測が難しいこのような時代だからこそ、状況の変化に寄り添うように對應する順応力が必要なのではないだろうか。彼はまた「思い入れや先入観から自由になることこそが強さのカギ」とも述べている。先入観からくる固定概念にとらわれがちな現代だからこそ、ことさらに重要な視点である。まだしばらくウィズ・コロナ、ウィズ・ウクライナの状況が続く。つい先例にならった固定的、画一的な対応になりがちな教育現場であるからこそ、水のように状況に合わせ、課題に対して柔軟に對應していきたいものである。

今年も農学部研究教育紀要が完成した。2016年9月に今の新しい形で発刊され、7号目となる。執筆者はもとより、取りまとめの労を取っていただいた農学部環境農学科關義和先生をはじめ、編集委員の先生方に感謝申し上げます。研究報告3報、業務報告2報が含まれ、特に、環境や森林生態に関わる報告が充実した内容となった。今年度の玉川大学農学部、大学院農学研究科のあゆみの記録としてご一読いただければ幸甚である。

2023年2月

